

平成24年度採択プログラム 中間評価調査  
 博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 【公表。ただし、項目13については非公表】

機関名	高知県立大学	整理番号	M02
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) (みなみ ひろこ) (きよはら まさよし) 南 裕子(高知県立大学学長)・清原正義(兵庫県立大学学長) (とくひさ たけし) (よしざわ やすゆき) 徳久 剛史(千葉大学学長)・吉澤 靖之(東京医科歯科大学学長) (たかだ さなえ) 高田早苗(日本赤十字看護大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) のじま さゆみ 氏名・職名 野嶋 佐由美(高知県立大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・副学長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) やまだ さとる 氏名・職名 山田 覚(高知県立大学大学院 看護学研究科看護学研究科 教授)		
4. 類型	M <複合領域型(安全安心)>		
5.	プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム	
	英語名称	Disaster Nursing Global Leader Degree Program	
	副題	人間の安全保障の実現を目指す	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(看護学) 付記する名称: Disaster Nursing Global Leader (DNGL)		
7. 主要分科	(① 看護学 ) (② 社会・安全システム科学 ) (③ 社会医学 ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 基礎看護学、自然災害科学、公衆衛生学・健康科学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	共同災害看護学専攻(平成26年4月1日開設) 高知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻、兵庫県立大学大学院看護学研究科看護学専攻、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻、千葉大学大学院看護学研究科看護学専攻、日本赤十字看護大学大学院看護学研究科看護学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名	共同災害看護学専攻(平成26年4月1日開設)		
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:高知県立大学 類型:複合領域型(安全安心) プログラム名称:災害看護グローバルリーダー養成プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 42 名					
外国人の人数	0 人	[ 0.0 %]	女性の人数	36 人	[ 85.7 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 100.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			42 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことがある者			42 人	そのうち、大学等以外に属する者	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 野嶋 佐由美	ノジマ サユミ		高知県立大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・副学長	看護学・博士(看護学)	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 山田 覚	ヤマダ サトル		高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	人間工学・博士(工学)	プログラムコーディネーター
中山 洋子	ナカヤマ ヨウコ		高知県立大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・特任教授	看護学・博士(看護学)	教育分担：災害サイクルにおける脆弱性を有する人々への看護・研究方法、倫理
中野 綾美	ナカノ アヤミ		高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・学部長	看護学・博士(看護学)	教育分担：災害サイクルにおける脆弱性を有する人々への看護・小児、研究方法
藤田 佐和	フジタ サワ		高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長・教授	看護学・博士(看護学)	高知県立大学大学院プログラム責任者 教育分担：災害サイクルにおける脆弱性を有する人々への看護
竹崎 久美子	タケザキ キミコ		高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・博士(看護学)	教育分担：災害サイクルにおける脆弱性を有する人々への看護
大村 誠	オムラ マコト		高知県立大学大学院人間生活学研究科・人間生活学専攻・教授	理学・博士(理学)	教育分担：地球科学にもとづく防災と看護
池田 光徳	イケダ ミツリ		高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	医学・医学博士	教育分担：災害が人体の及ぼす影響
長澤 紀美子	ナガサキ キミコ		高知県立大学大学院人間生活学研究科・人間生活学専攻・教授	社会福祉学・博士(学術)	教育分担：災害と国際社会福祉に関する知識
大川 宣容	オホカワ ノリミ		高知県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・准教授	看護学・博士(看護学)	教育分担：災害サイクル急性期・シミュレーション教育
神原 咲子	カンバラ サキコ		高知県立大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・准教授	看護学・博士(医学)	教育分担：災害看護学と国際看護学の教育
山本 あい子	ヤマモト アイコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・教授	看護学・博士(看護学)	共同実施機関所属者、ラボセンター長としてシミュレーション教育プログラム開発と実施、災害科目担当
片田 範子	カタタ ナノコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・研究科長	看護学・看護学博士	共同実施機関所属者 兵庫県立大学院責任者：教育評価と質管理；教育分担：看護理論、災害倫理
内布 敦子	ウチヌリ アツコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・学部長	看護学・博士(人間科学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害学際探求
坂下 玲子	サカタ レイコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・保健学博士	共同実施機関所属者 教育分担：災害看護研究法
工藤 美子	クドウ ミコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・博士(看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害要援護者(女性)の支援
増野 園恵	マシノ ソノエ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・博士(看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害看護教育およびシミュレーション教育
小西 美和子	コノシ ミワコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・博士(看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害看護教育及びシミュレーション教育
岡田 彩子	オカダ サヤコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・准教授	看護学・博士(看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：看護学教育・国際看護学
大野 かおり	オノ カオリ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・博士(保健学)	共同実施機関所属者 教育分担：地域における住民の支援・在宅看護学
森 菊子	モリ キクコ		兵庫県立大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・博士(看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害時慢性病を持つ人々の看護支援
井上 智子	イノウエ トモコ		東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・看護先進科学専攻・教授	看護学・博士(保健学)	共同実施機関所属者 東京医科歯科大学大学院責任者：教育評価と質の管理

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
本田 彰子	ホンダ アキコ		東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・看護先進科学専攻・教授	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 東京医科歯科大学大学院責任者補佐(大学院看護先進科学専攻長)：教育評価と質の管理
緒方 泰子	オガタ ヤスコ		東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・看護先進科学専攻・教授	看護学・博士 (保健学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害看護研究(統計学)災害学際的探求
近藤 暁子	コンドウ アキコ		東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・看護先進科学専攻・教授	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害看護研究(国際比較研究、Proposal writing)国際活動
佐々木 吉子	ササキ ヨシコ		東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・共同災害看護学専攻・教授	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：発災期の支援、クリティカルケア
深堀 浩樹	フカホリ ヒロキ		東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・看護先進科学専攻・教授	看護学・博士 (保健学)	共同実施機関所属者 教育分担：看護政策・産官学にわたる人材養成
三浦 英恵	ミウラ ハナエ		東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科・共同災害看護学専攻・准教授	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：慢性病をもつ被災者への支援、家族支援
宮崎 美砂子	ミヤザキ ミサコ		千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長・学部長	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：地域診断、支援の組織化・体制づくり、専門職連携(IPE/IPW)
正木 治恵	マサキ ハルエ		千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻教授	看護学・博士 (保健学)	共同実施機関所属者 千葉大学大学院責任者：教育評価と質の管理
岩崎 弥生	イワサキ ヤヨイ		千葉大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻教授	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害時の精神看護学
和住 淑子	ワズミ ヨシコ		千葉大学大学院看護学研究科・看護システム管理学専攻・教授	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：看護行政・政策、災害支援人材育成
近藤 昭彦	コンドウ アキヒコ		千葉大学環境リモートセンシング研究センター・教授	地理学・水文学博士 (理学)	共同実施機関所属者 教育担当：災害地理学、災害履歴に関する教育
岩崎 寛	イワサキ ユカ		千葉大学大学院園芸学研究科・環境園芸学専攻・准教授	緑地福祉学・人間植物関係学・博士 (農学)	共同実施機関所属者 教育担当：被災者への心のケア・復興期の地域づくりと園芸療法アプローチ
伊藤 尚子	イトウ ナカコ		千葉大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・特任准教授	看護学・修士 (保健学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害時の地域保健活動、異文化ケア
高田 早苗	タカタ サナエ		日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・学長	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 日本赤十字看護大学大学院プログラム責任者
本庄 恵子	ホンジョウ ケイコ		日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・研究科長	看護学・博士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：日本赤十字看護大学大学院責任者：教育評価と質保証
守田 美奈子	モリタ ミナコ		日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・学部長	看護学・博士 (保健学)	共同実施機関所属者 教育分担：緩和ケア
田村 由美	タムラ ユミ		日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・教授	看護学・博士 (人間科学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害マネジメント、災害看護活動とPHC・多機関連携アプローチ
小原 真理子	オハラ マリコ		日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・特任教授	看護学・博士 (学術)	共同実施機関所属者 教育分担：災害看護学
福井 小紀子	フカイ コノリ		日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	看護学・博士 (保健学)	共同実施機関所属者 教育分担：被災者ニーズ・支援のニーズ
内木 美恵	ナキ ミヱ		日本赤十字看護大学大学院看護学研究科・共同災害看護学専攻・講師	看護学・修士 (看護学)	共同実施機関所属者 教育分担：災害と看護管理・リーダーシップ、開発途上国における災害看護支援、災害とリプロダクティブ・ヘルス

(機関名: 高知県立大学 類型: 複合領域型(安全安心) プログラム名称: 災害看護グローバルリーダー養成プログラム)

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有(無))
プログラム募集定員数(実数)		人	人	10人	10人
① 応募学生数		人	人	24人	16人
	うち留学生数	人	人	人	1人
	うち自大学出身者数	人(人)	人(人)	6人(人)	2人(人)
	うち他大学出身者数	人(人)	人(人)	18人(人)	14人(1人)
	うち社会人学生数	人(人)	人(人)	7人(人)	7人(人)
	うち女性数	人(人)	人(人)	18人(人)	14人(人)
② 合格者数		人	人	11人	10人
	うち留学生数	人	人	人	1人
	うち自大学出身者数	人(人)	人(人)	4人(人)	人(人)
	うち他大学出身者数	人(人)	人(人)	7人(人)	10人(1人)
	うち社会人学生数	人(人)	人(人)	2人(人)	4人(人)
	うち女性数	人(人)	人(人)	11人(人)	8人(人)
③ ②のうち受講学生数		人	人	11人	10人
	うち留学生数	人	人	人	1人
	うち自大学出身者数	人(人)	人(人)	4人(人)	人(人)
	うち他大学出身者数	人(人)	人(人)	7人(人)	10人(1人)
	うち社会人学生数	人(人)	人(人)	2人(人)	4人(人)
	うち女性数	人(人)	人(人)	11人(人)	8人(人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)		0.00倍	0.00倍	2.18倍	1.60倍
充足率(合格者数/募集定員)		0.00%	0.00%	110.00%	100.00%

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数  
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記し高知  
①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度	
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計			
平成24年度選抜						0						0						0						0			
うち留学生数						0						0						0						0			
うち自大学出身者数						0						0						0						0			
うち他大学出身者数						0						0						0						0			
うち社会人学生数						0						0						0						0			
うち女性数						0						0						0						0			
平成25年度選抜																											
うち留学生数																											
うち自大学出身者数																											
うち他大学出身者数																											
うち社会人学生数																											
うち女性数																											
平成26年度選抜													11					11	11						11		
うち留学生数																		0							0		
うち自大学出身者数													4					4	4						4		
うち他大学出身者数													7					7	7						7		
うち社会人学生数													2					2	2						2		
うち女性数													11					11	11						11		
平成27年度選抜																			10						10		
うち留学生数																			1						1		
うち自大学出身者数																									0		
うち他大学出身者数																			10						10		
うち社会人学生数																			4						4		
うち女性数																			8						8		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	11	10	11	0	0	0	0	21		
修了者数																			0								
就職者数																											
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																			0								

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成26年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成27年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### 本プログラムの概要

**「博士課程共同教育課程：共同災害看護学専攻」は、参画する5大学院がそれぞれ蓄積してきた資源を共有し、我が国で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、学際的国際的指導力を発揮する世界的リーダーを養成し、特に災害に関して産官学と協働して、人々の健康社会構築と安全・安心・自立に寄与することを目的としている。**

我が国の看護系大学院は、平成23年4月に136校となり、医科大学、薬科大学を遙かに凌ぐ数となり、看護職は産（医療施設、在宅、企業・学校等）、官（厚生労働・文部科学行政等）、学（教育・研究者育成等）と多岐にわたって活動している。災害看護教育は1995年阪神淡路大震災を契機に、学部や大学院で開始された。また卒後医療施設に勤務する看護職は災害時に医療救護班等で活動してきた。しかし、昨年3月11日に発生した東日本大震災は、被害規模や広域性、原発事故という複雑性から、従来の枠組みや方式では十分な支援を提供しえない限界を明らかにした。

地球環境の変化に伴い激化し増加する自然災害・テロ攻撃を含む人為災害、そして新たな感染症の流行等の予期せぬ災害や不測の事態に備えて、人々の生命と健康危機へ対応する高度看護実践職の育成と新たな支援枠組みを提唱し、活動を統括する能力を備える国際的な災害看護グローバルリーダーの育成が急務と考える。

そこで看護学大学院教育の牽引的立場にある千葉大学および東京医科歯科大学、我が国の災害看護学の構築と発展に寄与した兵庫県立大学と高知県立大学、災害時の対応について実践を蓄積してきた日本赤十字看護大学の5大学院が協同して、「災害看護グローバルリーダー(Disaster Nursing Global Leader: DNGL)養成プログラム」を策定する。

プログラムの全体責任者は、災害看護拠点の形成(21世紀COE)を始めとして、我が国の災害看護学の基盤を構築した実績を持つ。さらに共同校の大学院教育改革プログラムの実績なども活かして、既成の制度やシステムを変革することのできる国際的なリーダー養成を目指す。運営は、5大学院の共同利用施設として「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム管理センター」を設置し、その下に「災害看護シミュレーションラボ」等を置く。これらのもとで、①各大学の候補院生に対する選抜試験、②開発された履修プログラム適用(留学制度、ラボの活用)、③インターンシップの実施(例:WHO職員、政治家、行政職員、企業社員として)、④5大学院共同体制による「Qualifying examination」の実施、⑤博士論文の一貫としてモデル事業やインターンシップの成果判定、⑥5大学院共同体制による研究指導体制、⑦5大学共同体制による「学位論文審査部会」による学位授与の決定、またプログラム修了後も⑧産官学への共同モデル事業案の提案・実践と評価などを実施する。

### プログラムの特色

本プログラムの特徴は、5大学院の蓄積してきた資源を共有し、各大学院研究科に共同災害看護学専攻という共同教育課程を設置し、「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム」を策定し、共同責任体制で一貫した教育を行いつつ、各大学院はそれぞれの特色をさらに強化していくこと、災害看護学とともにサブスペシャリティとして臨床領域、管理領域、産業領域、行政領域で災害看護学の浸透を推進すること、国内外とのインターンシップ実施やモデル事業提案を義務づけることである。

### プログラムの優位性

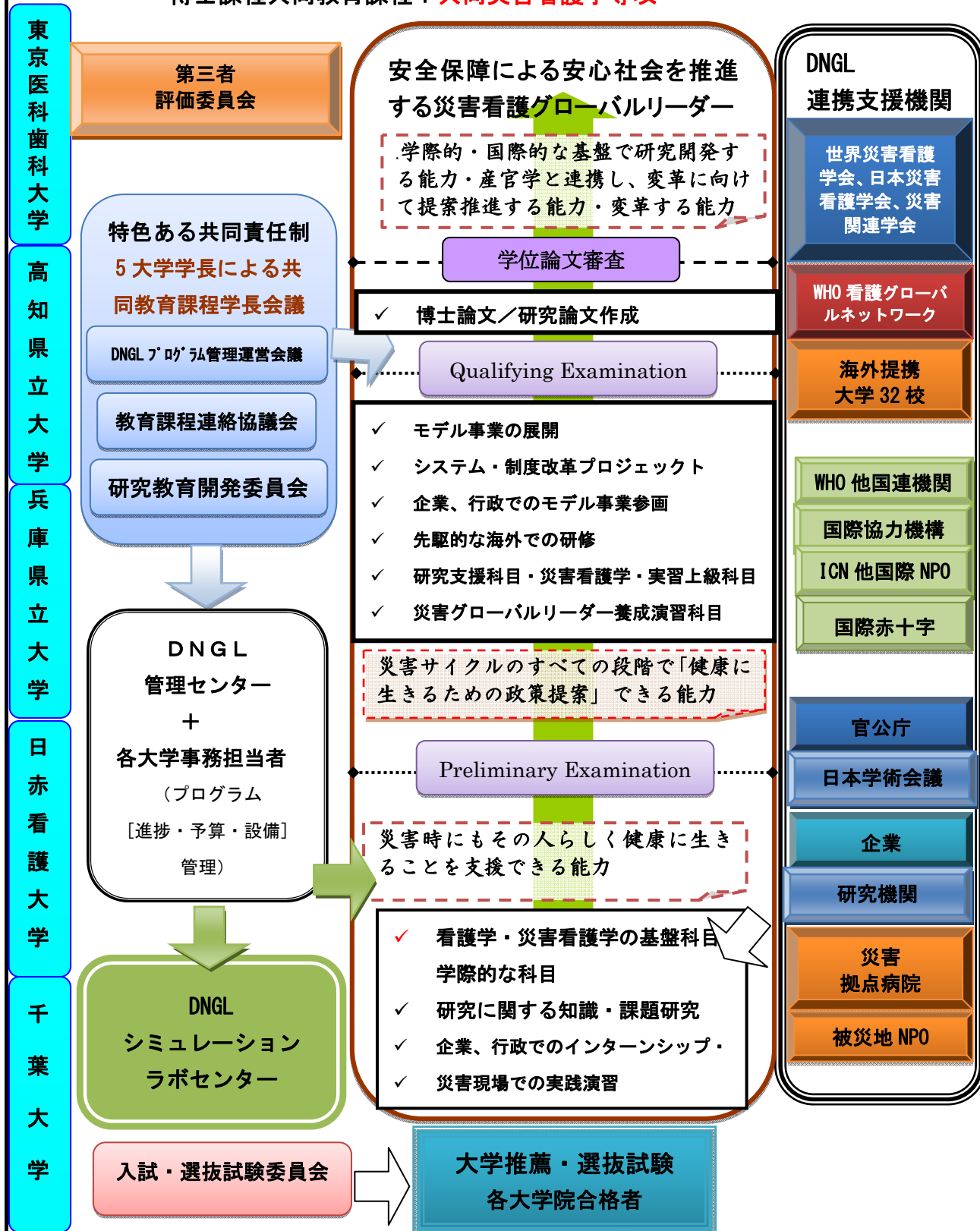
災害対応方略の開発は、国内外において緊急課題となっている。生産人口の70人に一人、女性労働者の20人に一人は看護職である背景を踏まえて「人間による世界最大の社会保障集団」としての自覚のもと、産官学に渡るグローバルリーダーを養成する。かつ共同教育課程という新たな組織構造により連鎖的な変革へとつなげうる、現在の我が国に求められている優先性の高い事業である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

〈災害看護グローバルリーダー (DNGL) 養成プログラム〉

博士課程共同教育課程：共同災害看護学専攻





## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	高知県立大学	整理番号	M02
プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	野嶋 佐由美	プログラム コーディネーター	山田 覚

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### 【総括評価】

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

#### 【コメント】

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、その基礎をなす災害看護の概念が明瞭になってきており、またこれに伴い5大学の連携という理念は徐々に実現しつつあると評価できる。しかし、グローバルリーダーを養成するプログラムに相応しい教育体系の構築に遅れがみられ、特に災害看護学により育む8つの能力の効果的な育成法とその到達度の評価法の確立について、今後一層の努力が求められる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、本プログラム修了後の進路に不安があるとする学生の割合が平成27年度当初非常に高かったため、キャリアパスの見通しの明確化と開拓が一層求められる。特に、国内外でのインターンシップ制度の充実、海外の連携拠点校への留学を通じたキャリア開発プログラムの設置など、学生の俯瞰力・独創力を高める努力が望まれる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、国際活動を実践するにあたっての素養（語学力、コミュニケーション能力、リーダーシップ等）の向上をめざしたカリキュラム構成及び環境の整備が求められる。特に、日常的に英語に接する機会の充実や、国際機関へのインターンシップの実施に積極的に取り組むことが望まれる。

優秀な学生の獲得については、学生は、意欲が高いだけでなく、臨床経験年数が豊か（平均8.4年）であり、災害対応経験や海外での臨床経験がある等、エキスパート性を有する優秀な学生が確保されていると判断できる。今後は留学生にとっても能力形成が可能なカリキュラム整備を行い、留学生の募集や支援にも努めることが望まれる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、グローバルリーダーを育成するために、国際的業績のある教授を招聘するなどして充実することが期待される。また、学位論文審査については論文の質に関する外部評価の確保が望まれる。

事業の定着・発展については、既に5大学が共同して「共同災害看護学専攻」を設置しており、支援期間中のみの一時的なものではないという強い意志がみられる。5大学連携体制が構築され、大学間の調整も進みつつあると思われるが、今後は、学生への支援内容や専門領域の教員確保等について、5大学で足並みを揃え取り組むことが求められる。